

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 農産園芸課長 森上 浩平 電話番号 0852-22-5123

事務事業の名称	島根の水田利活用総合促進対策事業	
目的	(1) 対象	米等の生産者
	(2) 意図	新規需要米（飼料用米、米粉用米等）、新規作物等の作付拡大により、水田の不作付地解消及び多面的な利活用の推進を図る。
事業概要	平成26年度から「水田活用の直接支払交付金」に飼料用米に対する数量払いが導入され、収量実績が収入に直接影響するようになったため、多収性専用品種比較（みほひかり、ホシアオバ、モミロマン）展示ほを設置し、収量及び収益性について調査を実施する。 また、米粉用米については、保育所、社会福祉施設等の給食施設を対象としたセミナー等の開催により需要拡大を図る。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	新規需要米（飼料用米、稲発酵粗飼料）の作付面積	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	新規需要米（飼料用米、稲発酵粗飼料）の作付面積	目標値	975.00	980.00	1,000	
			実績値	975.00	855.00	874.00	1,131		
			達成率		87.20	87.40	113.10		%
式・定義	指標名	不作付地の解消面積	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値	70.00	100.00	50.00	50.00	50.00	
			実績値	70.00	-11.00	12.00	-33.00		
			達成率		-11.00	24.00	-66.00		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,638	1,500
うち一般財源(千円)	1,638	1,500

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

○新規需要米の作付け面積について
 ・平成26年度、新規需要米の作付け面積は1,140haとなり、目標を達成。
 ・飼料用米の作付面積は、559ha(H25)⇒745ha(H26)⇒1,100ha(H27見込)と拡大見込み。
 ・稲発酵粗飼料の作付面積は、308ha(H25)⇒386ha(H26)⇒480ha(H27見込)と拡大見込み。
 ○不作付地の解消面積について
 ・H22年度359ha、H23年度70haを解消したが、その後、新たな不作付地の発生は抑制され、横ばい状況で維持。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・平成26年度から「水田活用の直接支払交付金」に飼料用米に対する数量払いが導入され、交付金の上限が増額したことから、作付面積が増加(+186ha)。
 ・多収性専用品種比較展示ほの収量及び収益性の調査結果は、全品種とも数量払い最大限の交付可能な収量を確保。特に「みほひかり」は栽培層に基づく施肥量を投入すれば収量を確保でき、種苗費が安価であることから、収益性が高いことを実証。
 ・新たな需要先を掘り起こすため、肉用牛、養豚農家に対して飼料用米利用に関する意向調査を実施し、利用希望を把握。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・飼料用米の受入・保管体制と需要量から作付面積拡大が限界に近づきつつある。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・カンントリーエレベーター等の保管許容量(4,400t)を超過し、受入・保管体制が限界に来ている。
 - ・これまでの養鶏を中心とした需要量だけでは限界である。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・今後、さらに増える飼料用米に対応した受入・保管体制の点検・相互補完、再整備が必要。
 - ・飼料用米の流通・保管コストのウェイトが大きくなっているためその対策が必要。
 - ・飼料用米の県内需要先の確保が必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・今まで飼料用米生産に取り組んでいない地域に対して、調製・保管体制づくりに要する経費の補助を実施。
 ・新たな需要先（畜産農家）の意向調査結果に基づき、詳細な意向確認による需要量の拡大。
 ・全農60万tスキームの詳細を見極めながら、移行を含め検討。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）